



青木トクイさん(外内)



ここでは、毎回「までい」に関する皆さんの思い出をお話していただいています。

2月15日に飯桶4区のふるさと芸能まつりがあります。私も若い頃は踊りが好きで、敬老会はもちろん個人的に踊りを習ったりして踊っていました。

外内の「笠踊り」は、飯桶中学校ができる頃から踊られるようになりました。それは、当時校舎建築のため、山の木を切って、それを運ぶ馬車が原町から来ていました。この馬車引きの人が夜、笠石の愛沢さんのお宅でお風呂を借りて泊まったりしていたときに、私たちが笠踊りを習い、その頃から踊り始めたんです。

踊りは主に地元大雷神社のお祭りの時に踊られますが、はじめ、衣装の長襦袢は踊り専用の物ではなく、日頃着物の下に着ていたものだったときもありました。また、昔はカセットテープなんてなかったので、歌は人間が歌うしかありません。お祭りは、毎晩の練習と、本番2日間でそれこそ100回も歌わなくてはいけません。地元の人だけで全部を歌うのは大変。そんなとき、お祭り当日にお隣の伊丹沢から、男の人達が歌を歌うのを手伝ってくれました。昔は祭ぐらいしか楽しいことがなかったといえればそれまでですが、そうやって人と人のつながりが広がっていきました。便利な機械もなかったから、頼りにできるものはやっぱり「人」でした。「人付き合いはまでいに」ですね。

私はもう年で、よらぶってもう踊れませんが(笑)、芸能まつりはぜひ見に行きたいと思っています。



▲消火器を使った訓練



▲本堂への放水訓練

飯館分署署員らによる放水訓練、地区住民らによる消火器を使った初期消火訓練などが行われました。参加者らは真剣な面持ちで訓練に臨み、有事の際の備えを万全にしておきました。

1月26日、文化財防火デーにちなんで、飯桶町の善応寺で、第49回文化財防火デー消防訓練が行われました。訓練はお寺に火災が起こった場合を想定し、檀家らによる重要物品の運び出しのほか、消防団員・広域消防

貴重な文化財を火災から守る 文化財防火デー消火訓練